

高齢者施設における結核対策への取組

東部厚生環境事務所・東部保健所

○原田祐佳 後藤宏美 三宅智子 宇田ともみ 塩田真麻

岸本益実 佐藤博子 藤井眞一 新田一博 内山偉文

I はじめに

管内における高齢者の結核患者の占める割合は高く、また高齢者施設で発生した事例もあり、高齢者施設職員に対する結核の正しい知識の普及が必要になっている。

そこで、高齢者施設において結核の早期発見・早期治療をし、結核患者が安心して地域で生活できる環境を整備するため、施設に対する結核への理解、連携のあり方を検討する。

II アンケート調査の概要

1 対象と方法

管内高齢者施設 46 施設を対象に郵送法によりアンケート調査を実施

2 調査期間

平成 24 年 9 月 13 日～平成 24 年 10 月 5 日

3 調査項目

施設の概要、入所者（ショートステイを含む）の健康状態の把握状況、職員の健康診断実施状況、結核対策に関する施設の実施状況、結核対策に関しての不安、保健所職員による結核研修希望の有無等

III 調査結果

1 回収状況

調査票配布施設数は 46、回収率（数）は 82.6%（38 施設）であった。

施設別回収率をみると介護老人福祉施設（地域密着型を含む）76.2%（21 施設配布中 16 施設回答）、介護老人保健施設 92.9%（14 施設配布中 13 施設回答）、特定施設入居者生活介護事業所（地域密着型を含む）81.8%（11 施設配布中 9 施設回答）であった。

2 入所者の健康診断状況

（1）利用開始時の健康状態の把握は、家族、ケアマネージャーからの聞取りが 65.8%、主治医からの聞取りが 94.7%であった。その内、健康診断書の提出により胸部エックス線検査を求めた施設が 42.1%であり、施設毎に見ると、介護老人福祉施設 26.7%、介護老人保健施設 46.2%、特定施設入居者生活介護事業所 60.0%であった。

（2）毎日の健康状態の把握は、バイタルサインチェックが最も多く 68.4%で、次いで呼吸症状のチェック 31.6%であった。

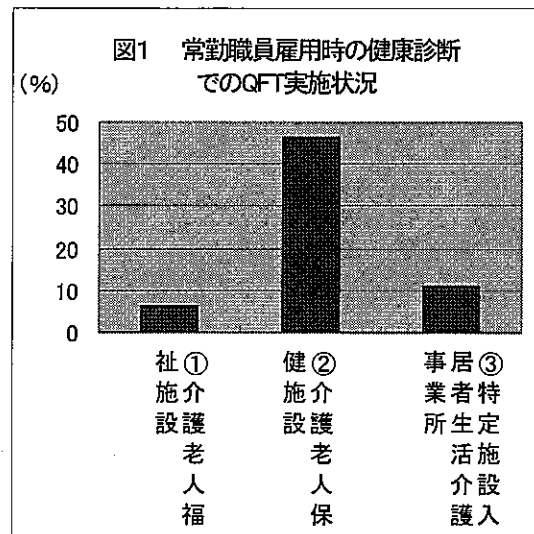
（3）定期健康診断の実施状況は 1 回／年以上が、介護老人福祉施設 100%、介護老人保健施設 61.5%、特定施設入居者生活介護事業所 77.8%であった。

3 職員の健康診断状況

(1) 常勤職員雇用時の健康診断で QFT 検査実施している施設は、介護老人保健施設が 46.2% (図 1-②) で最も多く、他施設の実施率は 6.3% (図 1-①) と 11.1% (図 1-③) であった。

(2) 非常勤職員の雇用時の健康診断については、介護老人福祉施設 50.0%，介護老人保健施設 76.9%，特定施設入居者生活介護事業所 77.8% であった。

また、定期健康診断の実施率は全施設平均 94.7% と高かった。



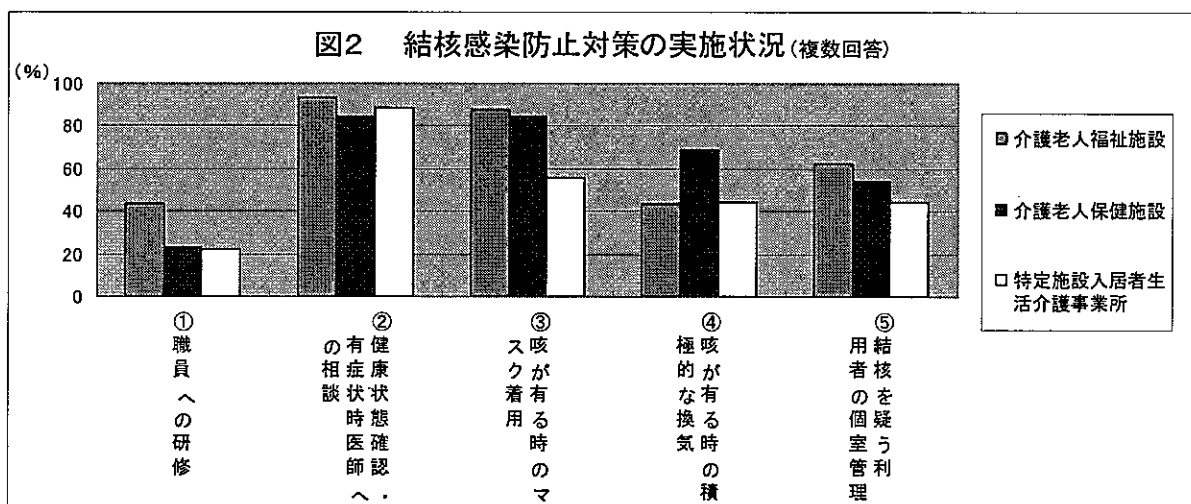
4 結核予防対策に関する施設の状況

(1) 過去 3 年間で見ると感染症対策委員会において結核予防対策を議題にした施設は、介護老人福祉施設 37.5%，介護老人保健施設 46.2%，特定施設入居者生活介護事業所 22.2% であった。

(2) 結核予防対策に特化したマニュアルを整備しているのは、全施設平均 50% であった。

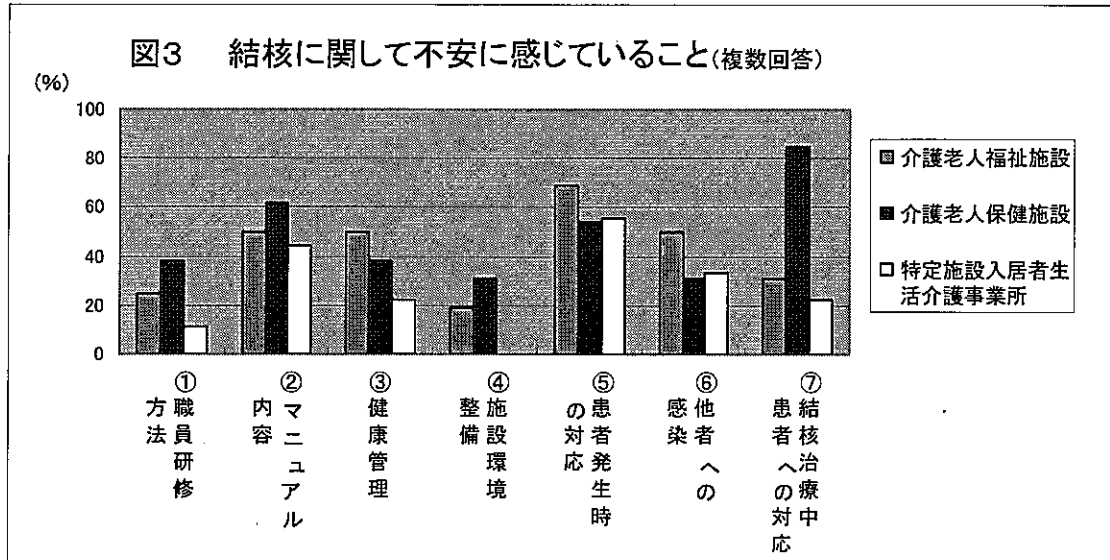
(3) 昨年、職員研修で結核に関する研修会を実施した施設は、介護老人福祉施設 43.8% (図 2-①)，介護老人保健施設 23.1% (図 2-①)，特定施設入居者生活介護事業所 22.2% (図 2-①) であった。

(4) 結核の感染防止対策として施設が実施している内容は、利用者及び職員の毎日の健康観察状態の確認・有症状時の医師への相談が全施設平均で 89.5% (図 2-②)，いずれの施設とも高かった。次いで咳が有る時のマスク着用が全施設平均 78.9% (図 2-③)，結核を疑う利用者の個室管理が全施設平均 55.3% (図 2-⑤)，積極的な換気が全施設平均 52.6% (図 2-④) であった。



(5) 介護老人保健施設 3 施設，介護老人福祉施設 2 施設は、通院治療中の結核患者を入れた経験があった。

5 結核対策に関して不安に感じていることや困っていることでは、結核患者発生時の対応が全施設平均 71.1% (図 3-⑤) と最も多く、次いで他者への感染の不安が全施設平均 52.6% (図 3-⑥), 結核対策マニュアル内容が全施設平均 52.6% (図 3-②) であった。結核治療中患者の受入れを経験した施設も同様の傾向が見られた。



6 保健所職員による結核研修の希望については全施設平均 80%が希望しており、特に介護老人保健施設以外の施設から希望が多かった。内容としては結核に関する基本的な知識、平常時・発生時の対応等幅広い希望があった。

IV 考察

1 入所時及び定期健康診断

高齢者施設を利用する高齢者は長期にわたり集団生活を送ることが想定される。

高齢者は結核に感染している者が多く、罹患率も高いにもかかわらず、入所時健康診断で胸部エックス線検査を実施している施設は全施設平均 42.1%であり、入所時胸部エックス線検査や結核に関する問診の実施は、まん延防止のため、実施するよう働きかける必要がある。

また、定期健康診断は、介護老人福祉施設では法に基づき年 1 回全ての施設で実施されているが、義務付けのない介護老人保健施設は 38.5%、特定施設入居者生活介護事業所は 22.2%であり、義務付けのない施設においても、定期健康診断を年 1 回、実施するよう働きかける必要がある。

なお、高齢者は結核特有の症状を呈さない事例があることを念頭におき、健康観察を経時的に実施し、必要時、医師に相談するよう職員に働きかける必要がある。

2 職員健康診断

常勤職員雇用時の健康診断で QFT 検査を実施している施設は、介護老人保健施設が最も多く、QFT 検査は結核感染の有無の確認、採用後の健康管理をする上で必要なデータとなることから実施が望まれる。

また、非常勤職員の定期健康診断はどの施設でもほぼ実施されていたが、雇用時の健

康診断実施状況にばらつきがある施設に対しては、感染防止の観点から健康診断を実施するよう働きかける必要がある。

3 結核マニュアルの整備

介護老人福祉施設と介護老人保健施設は、感染症の予防やまん延防止のための指針を整備することになっているが、結核対策に特化したマニュアルの整備率は全施設平均50%であり、今後整備に向けた働きかけを行う必要がある。どの施設においても患者発生後の対応に不安を持っており、マニュアル項目には平常時の対応と患者発生後の施設内での具体的な対応方法等を明記する必要がある。

4 結核対策への関心

感染症対策委員会や職員研修において結核をテーマとした施設は半数にも達していない。これは、施設がノロウイルスやインフルエンザ等の集団発生しやすい感染症への対策を優先していることが一つの要因として考えられる。結核研修を希望した施設も多く、高齢者施設が結核対策に対する認識を持ち続けられるよう、引き続き研修等により啓発を行う必要がある。

また、結核に対しての不安は、入所者及び職員の発生時の対応や感染拡大防止策について多く、研修等を行う際はこれらの情報提供を行うことが施設職員の不安の軽減や結核治療中の患者の受け入れにつながると考える。

今後、結核感染への過度の心配から患者が不利益（不当）な処遇を受けることのないよう、研修会やマニュアル配布等を通して職員研修の場を設け、結核への知識の普及に努めることが必要である。

V 今後の方向性について

- 1 各施設の課題を踏まえ、希望施設に対し研修会を実施し、職員の理解を求めるとともに、結核に感染している患者に対する円滑な受入れを働きかける。
- 2 アンケート結果を踏まえ、感染予防及びまん延防止のための結核対策マニュアルを作成し、アンケート実施施設及び管内市町主管課に配布する。
- 3 当所から各施設に対して継続的に結核に関する啓発活動を行う。

VI おわりに

今回のアンケート実施により結核対策への現状及び課題を把握することが出来た。

高齢者施設における結核対策への取組は、介護老人保健施設は医療施設であるためおおむね適切に実施されていたが、これ以外の施設では十分とはいえない状況であった。今後更に高齢者施設への結核治療中の方が入所を希望されることが予想され、引き続き、高齢者施設に対して、研修会・マニュアル配布等により結核に対する知識の啓発に努める必要がある。

また、患者が安心して地域で生活できるよう、市町や医療・福祉・保健関係者と連携を図りながら、早期発見・早期治療、体制の充実に努めるとともに、生活環境整備に向けて取り組んでいきたい。

調 査 票

1. 施設の概要について教えてください。
 - (1) 施設の種類を教えてください。
 - ① 介護老人福祉施設 (地域密着型を含む)
 - ② 介護老人保健施設 (地域密着型を含む)
 - ③ 特定施設入居者生活介護事業所 (地域密着型を含む)
 - (2) ショートステイを併設していますか。
 - ① 有
 - ② 無
2. 入所者の結核を早期発見するためにどのようにされているか教えてください。
 - (1) 利用開始にあたりどのような情報を収集されていますか。
 - ① 家族やケアマネジャーからの聞き取り
 - ② 既往歴、現病歴
 - ③ 主治医からの情報提供
 - ④ 健康診断書の提出
 - ⑤ その他 ()
 - (2) (1) で④の場合、診断項目に胸部エックス線検査はありますか。
 - ① あり
 - ② なし
 - (3) 利用中の入所者の定期健康診断の実施状況を教えてください。
 () 回/年
 - (4) 入所者の健康状態を把握する中で、特に留意して観察等されている項目があればご記入ください。
 ()
3. 職員の健康診断の実施状況について教えてください。
 - (1) 常勤職員の雇用時の健康診断で QFT (オリアイロ) 検査を行っていますか。
 - ① 実施している
 - ② 実施していない
 - (2) 非常勤職員の雇用時及び定期健康診断を行っていますか。
 - 雇用時健康診断…… ① 実施している
 - ② 実施していない
 - 定期健康診断…… ① 実施している
 - ② 実施していない
4. 感染症・結核予防対策に関する施設の状態について教えてください。
 - (1) 感染症の予防及びまん延防止のための対策を検討する委員会の議題として、過去3年間の間に結核対策がありましたか。「はい」の場合は、議題の具体をご記入ください。
 - ① いいえ
 - ② はい ()
 - (2) 結核対策に特化したマニュアルを整備していますか。
 - ① 整備している
 - ② 整備していない
 - (3) 平成28年度に結核対策に関する研修を実施しましたか。
 - ① 実施した
 - ② 実施していない
 - (4) 結核の感染防止対策として貴施設で実施していることを教えてください。
 - ① 結核に関する職員研修を行っている。
 - ② 利用者及び職員の健康状態を毎日確認し、異常がある場合は医師 (協力病院の医師を含む) に相談している。
 - ③ 咳がある入所者や職員にマスク着用を促している。

- ④ 咳症状がある場合、積極的に部屋の換気を行っている。
 - ⑤ 結核を疑う入所者について、他の人に接触しないよう個室管理をしている。
5. 今までに、結核で通院治療を受けている方の入所を受け入れられたことはありますか。(複数回答可)
- ① ある
 - ② ない
6. 結核対策に関して不安に感じていることや困っていることを教えてください。(複数回答可)
- ① 結核対策として職員研修の実施方法
 - ② 結核対策として整備するマニュアル内容
 - ③ 結核対策として、入所者及び職員の健康管理
 - ④ 結核対策として、施設的环境整備 (空調、消毒など)
 - ⑤ 結核感染経路
 - ⑥ 結核について具体的な症状の観察方法
 - ⑦ 入所者及び職員に結核患者が発生したときの対応
 - ⑧ 他人所者及び職員への感染が不安
 - ⑨ 結核薬を服用している入所者に対する対応方法 (治療内容、治療期間)
 - ⑩ 結核薬を服用している入所者に対する対応方法 (他人所者との日常生活や交流方法)
 - ⑪ その他 ()

7. 施設職員に対して、保健所職員による結核研修を希望されますか。
- ① 希望する
 - ② 希望しない
- ↳ ①希望される場合、希望時期を記入ください。後日連絡をさせていただきます。
- (平成 年 月 頃)

8. その他、結核及び結核予防対策に関する御意見があれば記入してください。

アンケートに御記入いただきありがとうございます。

アンケート内容や結核研修について連絡させていただく場合がありますので、御回答いただいた方について御記入をお願いします。

施設名 ()
担当者 ()
連絡先 (電話番号) ()